

引き継ぎ

2022. 9. 15

次の担当の方が少しでもスムーズに仕事を進めることができるように、引き継ぎというものを行うことがある。校長は行っている。実際は、ファイルを見たり、パソコンのデータを探したりしながら、何とかしていくのだが、引き継ぎがあるとないとでは大違いである。それほど、引き継ぎには意味がある。

きっと、なければならぬ何かがあるのかもしれない。だが、前任者から直接話を聞けるのは魅力である。それでなくても、転勤をするときには、大きな不安が生じるものである。その不安を少しでも和らげ、見通しをもたせる効果が、引き継ぎにはある。

毎朝、決まったコンビニエンスストアで牛乳を買っている。私が行く時間は、いつも決まった店員さんである。シフトが決まっているのだろう。自然と、年配の同じ店員さんのお世話になるようになった。

すると、いつの頃からか、私が店内に入るタイミングで、レジ台にストローが置かれるようになった。もちろん、私のためである。こうなると、裏切るわけにはいかない。同じ牛乳を買うしかない。牛乳を持ってレジに行く。もはや二人にとってはルーティンである。ここまでは、以前にもこの紙面で紹介した。

あるとき、年配の店員さんがいなかった。お陰でルーティンが崩れた。次の日もいなかった。どうやらシフトが変わったようである。代わりに若い店員さんが私の担当となった。しばらくして、気がついた。何と若い店員さんも、私の入店と同時にストローを出しているではないか。

早すぎる。私が必ず同じ牛乳を買う人だと判断するには日が浅すぎる。私は確信した。私の担当だった年配の店員さんからの引き継ぎがあつたに違いない。そうに違いない。若い店員さんは、私がレジに向かう前にストローを出して、何やら満足気なのである。私とのやりとりが、まるで以前から行われていたかのようなのである。

クスッと笑いたくなかったが、我慢した。ちょっとうれしかった。新たな二人のルーティンが始まった。若いせい、以前よりもスムーズである。スマホ決済が素早い。今となつては、年配の店員さんがもたついていたことが懐かしい。

これからであろう。私の黒い車が視界に入ったと同時にストローを出すようになるのは。年配の店員さんは、そのレベルにまで達していた。プロ中のプロである。私と店員さんとの信頼関係によるものだったのである。ぜひ、若い店員さんにも引き継いでほしい。私は決して裏切らない。